

# 令和8年度 八王子市立松が谷中学校経営計画

令和8年4月

八王子市立松が谷中学校 校長 川島 隆

同

副校長 佐野 貴宏

## 学校経営に関わる基本的な考え方

### (1) 中学校の使命、役割

中学校は、義務教育最後の教育機関として、生徒一人一人に生きる力を確実に身に付けさせなければならない。

中学校教職員として、3年間で教育できることには限りがあるが、一人一人を大切に育て、成長してもらうためには、小中一貫教育の手法を取り入れ、入学前の情報についても十分に把握・活用して教育する必要がある。そして、中学校はさらに次の学校等に引き渡していく。

また、学級担任として学級活動等の指導にあたるのは、多くは1年だけであり、生徒たちは他の教員の指導も受けている。自分だけで育てるという意識ではなく、組織的対応を意識して、指導の継続性や連帯を図る必要である。

さらに、学校に関わることができるのは、一日の3分の1程度の時間でしかない。残りの時間を過ごす家庭や地域と連携した教育が必要である。家庭・地域には「大人が手本を示そう」「憧れの存在でいよう」と呼びかけていく。

3つの学年の成長過程を十分に理解し、その学年に応じた経験を積ませ、代々受け継がれてきたよい伝統、校風を守りつつ、次年度への展望をもたせることが大切である。中学校は、世の中で生き抜く力を身に付けるため、個人の可能性を広げ、伸ばすとともに、集団活動を通して「一員」としての役割や行動を学ぶ場である。義務教育終了段階で、一定水準以上の知識・技能を育むこと、コミュニティの中で生きていく力を育むことが中学校の根源的な役割である。

### (2) 学校経営の根幹

【心身の健康】よりよく生きていくためには、学力や豊かな心、健康などが不可欠である。心身が健康な状態でこそ意欲が湧き、よい結果を出すことができる。

【愛情】愛情に満たされた者は、自信をもち、自分以外にも愛情をもって接するようになる。愛情とは、その人のことを本当に大切にすることである。どんなことがあっても諦めない、見捨てないことである。その人のことを本気で考えれば、時には厳しく接することも必要になる。ただし、厳しさとは暴力や暴言、体罰や虐待を意味しない。

【人類の叡智の活用】よりよく生きていくためには、先達の業績や先進的な研究や取組を享受・活用することが欠かせない。人類の叡智を受け継ぎ、発展させていくことが学ぶ意味である。この学びのためにも人とうまく関わっていくことが必須である。

【コミュニケーション】学力不振、暴力、いじめ、不登校などの問題は、性格や環境等にも起因するが、コミュニケーション力の未熟によることが多い。コミュニケーションの第一は話すことではなく、聞くことである。自己をコントロールし、人や社会とうまく関わられることを目指していく必要がある。

【創意工夫】これまで行われてきた教育活動には、程度の差はあれ、すべて教育的な意味がある。そして、個々の教育活動及び準備にも相当の時間を要する。新たに取り組むべき教育課題も増えている。効率化や最適化については、柔軟で大胆な発想で、視点を捉え直し、本校の教育活動の推進・充実を目指す。

# 1 教育目標

- 1 進んで学び よく考える人
- 2 正義を愛し 心の豊かな人
- 3 体を鍛え 健康な人

## 2 目指す学校

### (1) 目指す学校像

- ①確かな学力を身に付け、自らの力で課題を解決する生徒を育成する学校
- ②教師と生徒、生徒同士の信頼関係を基に、共生的な態度を育む学校
- ③学校運営協議会と連携を図り、地域・保護者に信頼され、共に歩む学校

### (2) 目指す生徒像

- ①目標をもち、その実現に向けて、主体的に学ぶことができる生徒（主体性）
- ②言葉を通して、周りの物・事・人との関係をよりよくしていくことができる生徒（コミュニケーション能力・共生的な態度）
- ③自分で自分自身（心身）を調整する力をもった生徒（自律性）
- ④知識や情報を活かし、自分の考えを整理し、未知の状況に対応できる生徒（情報活用能力）

### (3) 目指す教職員像

- ①生徒一人一人を大切にし、温かく厳しく指導する教師
- ②見通しと目標を定め、工夫と改善を心がける教師
- ③一人で抱え込まず組織で対応する教師
- ④服務に厳正な教師

### (4) 目指す家庭像・地域像

- ①愛情あふれ、子どもが相談できる家庭と地域
- ②子どもの安全と成長を見守る地域
- ③子どもの手本となり、憧れの存在である大人

## 3 中期（3年程度）的な目標と方策

**中期目標1** 生徒が自らの将来に向けて、希望をもって卒業する学校づくり  
(学習意欲と基礎学力の定着)

- (1) 主体的に学習に向かう態度を向上させる
- (2) コミュニケーション力を向上させる
- (3) 学力を定着させ、学んだことをさらに深く探究し、活用する
- (4) 一人一台パソコンを有効に活用し、個の課題に対応した授業を展開する

**中期目標2** 適切な判断ができ、他を思いやる心をもつ生徒の育成  
(人権感覚と規範意識の育成)

- (1) 愛情を育み、心を豊かに大きくする
- (2) 好ましい関係を築けるようにする
- (3) 適切な進路を選択し、その道を歩む
- (4) 一人一人の能力や個性を伸長する

**中期目標3** 地域に根ざし、地域から信頼される学校づくり  
(自己有用感の育成)

- (1) 地域のボランティア活動・自治的活動に参加する
- (2) 地域や社会に貢献できるようにする
- (3) 地域に愛される学校にする

## 4 令和 8 年度 of 取組目標と方策

### (1) 教育活動の目標と方策

#### 目標1 学習意欲と基礎学力の定着

方策1 生徒が自らの将来に向けて希望をもって卒業する学校づくりのために

##### 【各教科等】

- ① 人権尊重教育推進校を経験した 2 年間を土台として、成果を上げた取組を踏まえ、「めあて(課題の設定)」「活動(個別最適、対話的)」「振り返り」を示した課題解決的な授業展開を通し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善及び八王子市学力定着度調査等の各種学力調査の結果を基に組織的に効果的な活用に取り組む。
- ② 1人1台の学習用端末を活用し、個別最適な学び及び協働的な学びを通して、言語活動の充実を図るとともに、「はちおうじっ子ミニマム」の定着に向けて基礎的・基本的な学習の定着を図る。
- ③ 理科教育においては、観察・実験の充実を通し、日常生活における現象と学習内容を関連付けることにより、効果的に思考力・判断力・表現力等を養う。

##### 【総合的な学習の時間】

- ④ 人権教育の視点に立ち、「課題を見出し、解決するためにできることを考え、行動できる生徒」を育成するために、各教科の学習や体験を通じて学んだ知識の定着及び活用を図る。
- ⑤ 協働的な学びを通して、郷土(八王子の日本遺産、東京)や日本(近隣の都市や東北)を学ぶことで、課題解決に向けて生徒が情報を活用する探究的な学習活動を行うとともに、地域への誇りと愛情等を深めるようにする。

##### 【キャリア教育】

- ⑥ 「はちおうじっ子キャリア・パスポート」においては、生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、9年間を見通して主体的に進路選択ができる能力を育む。
- ⑦ 生徒が自らの人生を積極的に切り開いていく力を育成するために、キャリア教育指導計画に基づき、地域調べや職業調べ、多文化との交流を通して、自己の生き方について主体的に考えさせられるようにするとともに、近隣の公園整備等のボランティア体験を通して、地域社会の一員としての自覚や責任を高め、地域を愛する気持ちを育む。

#### 目標2 豊かな心と人権感覚、規範意識の形成

方策2 主体的に学び、適切な判断ができ、他を思いやる心をもつ生徒の育成のために

##### 【特別の教科 道徳を要とする道徳教育】

- ① 道徳教育全体計画及び別葉を基に、教師等との対話や生徒同士の協働を通し、多面的・多角的に考え、主体的に判断し、社会の一員としてよりよく生きていこうとする態度を育む。
- ② 学校行事との関連を踏まえ、「思いやり、感謝」・「遵法精神、公德心」・「公正、公平、社会正義」等の内容項目について、重点的に指導する。

- ③ 「地域の子どもは地域で育てる」という視点に立ち、道徳授業地区公開講座の実施を通し、保護者や地域と「C 集団や社会との関りに関すること」の内容項目の価値について語り合うとともに、職場体験やボランティア活動、小学校や地域の行事等への参加を通し、地域との連携を深める。

#### 【いじめ防止等の取組】

- ④ 「学校いじめ対策委員会」において、「相談できる大人がいないを0」を目指して、スクールカウンセラー等と生徒指導についての情報の共有や連携を図り、「いじめ対応の時間」を活用し、いじめの未然防止及び早期発見に努める。
- ⑤ 情報モラル学習やふれあい月間アンケートの実施を通して、組織的にいじめ対応のための時間の充実を図る。また、「子ども見守りシート」の活用を通し、家庭との連携を推進し、安心して大人に相談できる環境を整える。
- ⑥ 「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」(7月)には、生命の尊さを主題とした授業、生徒会を中心とした生徒からの働きかけ、校長講話を行う。いじめ防止に関する授業を年間3回行う。

#### 【不登校生徒への支援】

- ⑦ 登校支援コーディネーターを中心に、個票システムの活用や、スクールカウンセラーや適応指導教室、保護者と連携を取り合い、生徒の状況の正確な把握に努めるとともに、スクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター等の地域の外部機関との連携を通し、生徒にとってより適切な環境(居場所)の整備を行う。
- ⑧ 学習端末を活用した授業配信等を行い、生徒のサポートを行うとともに、進路指導を適切に行う。

#### 【特別支援教育】

- ⑨ 校内委員会において、家庭や特別支援教育コーディネーターからの情報や子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー等の地域の機関と連携して指導の充実を図る。
- ⑩ 生徒、保護者の意向を踏まえ、1人1台の学習用端末を活用した学習環境の整備や教員の指導力等の専門性の向上を図り、特別支援学級との交流及び共同学習を行う。

## 目標3 家庭・地域との連携

### 方策3 地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりのために

#### 【特別活動】

- ① 集団宿泊行事においては、「高尾の森わくわくビレッジ」での野外アクティビティや室内レクリエーション等に取り組むことを通し、多様性を認め、ともに活動する楽しさを味わうことで、互いに尊重したり、集団生活のルールやマナーを守ろうとしたりする態度を育成する。
- ② 生徒会本部が中心となり、地域の人材と協力して、「地域清掃」や「児童館祭り」へ参加することで、地域との関連性を育む。

#### 【小中一貫教育(松が谷中、鹿島小、松が谷小)】

松が谷中グループの目標を「希望にあふれる9年間、3校同年51YEARS」とする。

- ③ 「小中一貫教育の日」を中心に、授業体験、合唱祭参観、はちおうじっ子サミットの合同会議等を行うとともに、小学校の運動会等の諸行事への係生徒の派遣等を行う。
- ④ 「学力定着プロジェクトチーム」において八王子市学力定着度調査の結果の分析をもとに、「学び合い、かかわり合い」に重点を置いた授業改善研修(6月、2月)を小学校と合同で行う。
- ⑤ 生活指導、特別支援教育及び人権教育における分科会を定期的で開催し、情報の共有を行う。
- ⑥ グループ3校の学校運営協議会、鹿島小・松が谷小の保護者、青少年対策松が谷地区委員会と連携し、挨拶運動、清掃活動、地域音楽祭、地域パトロール等を通して、松が谷地区における児童・生

徒の健全育成を図る。

#### 【部活動】

- ⑦ 八王子市の部活動改革においては、教員と生徒の信頼関係を基に、ガイドラインに則した適切な活動を行う。

#### 【学力向上の取組】

- ⑧ 「はちおうじっ子ミニマム」の活用を通して、社会生活を営む上で最低限身に付けるべき基礎的・基本的な学習事項の定着に向けて、学生ボランティアと連携し、放課後学習教室や八王子ベーシック・ドリル等を活用する。
- ⑨ 「Milestone (松が谷中家庭学習ガイド)」を活用し、家庭学習の定着を図る。

#### 【その他】

- ⑩ 校内研修の課題を「互いに高め合い、思いやりの心のある生徒の育成」とし、授業改善、個別的・普遍的な人権課題等について、計画的に研修を実施し、教員の一層の人権意識の向上を図る。生徒会による「人権標語コンテスト」を実施し、校内に作品を掲示する。
- ⑪ 義務教育9年間を見通した ICT 活用に関して、「八王子市版情報活用能力系統表（情報リテラシー編）」を活用し、情報リテラシーを育成する。また、市学力定着度調査の結果を踏まえ、家庭学習においても日常的に1人1台の学習用端末を使用させ、生徒一人ひとりの基礎学力の定着を図る。

### (2) 検証方法

- ① 保護者の学校教育活動に対する関心を高め、全保護者の80パーセント以上から保護者アンケートを回収する。
- ② 生徒・保護者アンケート結果の各項目を参照し、肯定的評価が80パーセントを越える。

### (3) 年間計画

時期	内容
4月	学校経営計画の周知・公表 学校経営計画及び教育課程届に基づいた教育活動の展開
7月	学校評価(中間)
令和9年1月	令和9年度学校経営計画(素案)を教職員に提示 年度反省 令和9年度教育課程届編成、各種年間計画の作成 学校評価
2月	令和9年度教育課程届出